

ナンセンスのビジュアル表現

佐藤正明

「1」 デイズニー・アニメ『ふしぎの国のアリス』

ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』と『鏡の国のアリス』はナンセンス小説の代表作とされている。テニエルの挿し絵の助けがあるものの、ナンセンスは言葉によって表現されている。このアリス作品を映像化するときに制作者はナンセンスをどのように表現しているかは興味あるところである。最初に、デイズニー・アニメ『ふしぎの国のアリス』（一九五二）について見てみる。この作品は二つのアリス物語からエピソード、キャラクターをピックアップして制作されたものだが、そこに描かれているナンセンスは次の三つに大別された。

- (A) ナンセンスな生き物たち
 - (B) ナンセンスな行動
 - (C) ナンセンスな状況
- それぞれ見ていこう。
- (A) ナンセンスな生き物たち
 - ① 目鼻口のあるドアノブ
 - ② 花壇の昆虫たち
 - ③ チェシヤ猫
 - ④ タルジীর森の生き物たち
- ①は広間の小さなドアについているドアノ

ブ。デイズニー・アニメで生物以外に目鼻口をつけて喋らせたのはこれが最初ではないだろうか。もちろん原作のアリスにはない。

ちなみに、ルイス・パジェットが一九四六年に発表した長編SF *The Fairy Chessman* の冒頭には、青い目がひとつ付いたドアノブの幻覚が描かれているが、デイズニーの制作スタッフがこれを読んでいたかどうかは分からない。

②は言葉遊びから派生した昆虫で、原作の『鏡の国のアリス』第三章に出てくる

bread-and-butterfly (バター付きパン+蝶、*rocking-horsefly* (揺り木馬+ウマバエ)と、デイズニー・オリジナルの

dog-and-caterpillars。最後のものは *cat and dog* (犬猿の仲)の意)の前後をひっくりかえして *caterpillar* (イモムシ)と合成している。映像では犬イモムシと猫毛虫が喧嘩をしている。

③は原作にあるチェシヤ猫に派手な色彩を与え、現れ方・消え方も独創的なものになっている。

④については、『鏡の国のアリス』の第一章に出てくる詩「ジャバーウオツキー」で言及されている「タルジীর森」をアリスの舞台に導入し、十三種類ものナンセンスな生き物を

登場させている。筆者のネーミングであるが、眼鏡鳥、手鏡鳥、ラッパ鴨、ティンパニー蛙、シンバル蛙、雨傘禿鷹、スコップ駝鳥、鳥籠鳥、アコーディオン鳥、ハンマー鳥、鉛筆鳥、モメラス、箒犬。原作に名前が出ているのはモメラスだけ。

(B) ナンセンスな行動

⑤イモムシの煙芸

⑥イモムシの手足が勝手に動く

⑦ティーパーティーのカップ・皿・ポット・

お茶を帽子屋と三月兔が自在に操る

⑧帽子屋による時計の修理

⑤のイモムシが水煙管のカラフルな煙を使って見せる芸はすばらしい。言葉に合わせてアルファベットや？マークの煙を出し、「小さなワニさん」の歌では煙で内容が表現される。さらに煙でダートの的と矢も描かれる。

⑥については、水煙管のパイプを真ん中の手がふさいだり、葉の上に乗るときに後ろの足だけが遅れたりしていることを自分で気づいていない。

⑦は作品中でもっともナンセンスさが際立っているシーン。帽子屋と三月兔がテーブルの上のものを縦横無尽に使ってさまざまな奇行を行う。お茶を半分 half a cup (of tea) と言ってカップを縦に半分に切ってお茶を注

ぐのは秀逸。

⑧については、原作では帽子屋の時計に三月兔がバターを塗ったことが触れられているだけだが、アニメでは白兔の時計を帽子屋が奪っているいろいろなものを塗りたくり、時計を発狂させてしまう。

(C) ナンセンスな状況

⑨「セイウチと大工」の詩の中で海岸の

昼と夜が共存

⑩森の中のたくさんの道標

⑪タルジーの森でみつけた道を箒犬に消

されて迷子になる

⑫夢から覚める直前、鍵穴から自分の眠っている姿を見る

⑨は『鏡の国のアリス』の第四章に出てくるが、アニメはそれを映像化している。

⑩は THIS WAY, THAT WAY YONDER, UP, DOWN, BACK, GO BACK などさまざまな方向を指しており、道標の役割を果たしていない。結局、アリスはチェシヤ猫に道をきくことになる。

⑪では、アリスがタルジーの森から抜け出す道を見つけるが、箒犬が現れてアリスの前後の道を箒で消してしまったので、迷子になる。ここでもチェシヤ猫の助けで、近道の扉を開けてもらう。

⑫では、アリスがハートの女王に追われて小さな扉をあけようとするが、鍵穴から向こうを覗くと、自分が眠っている姿が見えたので、「アリス、起きてー」と叫ぶ。

以上のようにディズニー・アニメ版ではさまざまなナンセンス映像を見ることができ。この作品のコンセプト・アートを作成したのはメアリー・ブレアだが、この時点ですでに④タルジーの森の生き物たち、⑦ティーパーティー、⑧帽子屋による時計の修理、⑨「セイウチと大工」の詩の海岸、⑩森の中のたくさんの道標、はアイデアが提示されている。タルジーの森のシーンは Tulgey Wood と Mome Raths の名前以外はディズニーのまったくのオリジナル。メアリー・ブレアは『鏡の国のアリス』の「ポロゴーフはミムジイ」の挿し絵に匹敵するナンセンスな場面を挿入しようと構想していたのであろう。

〔二〕ヤン・シュヴァンクマイエル 監督『アリス』

『アリス』（一九八八）では、物置のような小部屋でアリス（クリステイナ・コホウトヴァー）が遊んでいると、ガラスケースに飾

ディズニー・アニメ『ふしぎの国のアリス』



ヤン・シュヴァンクマイエル監督『アリス』



ってあった剥製の白兔が動き出し、ガラスを割って逃げ出したので、アリスがそのあとを追うところから始まる。登場人物はすべて小屋においてある剥製、動物の骨格標本、人形など。登場人物の数は減らされているが、物語の流れは原作の『不思議の国のアリス』にほぼ忠実で、省略されているのはコーカスレース、チェシヤ猫、まがい海ガメとグリフオンのエピソードだけ。ナンセンスな場面をいくつかのカテゴリーに分けて見てみる。

(1) 魔法の引出し

机の引出しがさまざまな場面で、ドラえもんポケットと「どこでもドア」の役割を担っている——白兔とアリスが地下世界に入る入口になり、アリスが落ちた枯葉の山も吸い込んで片付け、必要に応じて安全ピンや鍵やインク瓶 (Drink Me) やクッキー (Eat Me) や梯子や錠を出してくれて、イモムシの体を構成するパーツである眼 (義眼) や口 (入れ歯) や胴体 (靴下) も出してくれる。アリスが引出しの取っ手を引っ張ると必ず抜けてしまいうのもおかしい。

(2) 小さくなったり大きくなったり

原作と同じようにアリスは壇の中身やクッキーで何度も小さくなったり大きくなったりする。この作品では小さくなったアリスが人

形として表現されるのがおかしい。小さくなつて白兔の家から抜け出したアリス (人形) は動物たちに追い詰められてミルクのバケツに落とされるが、ここでは人形の姿のまま大きくなってしまう。身動きができないアリスは動物たちに引きずっていかれて、食料貯蔵庫に閉じ込められる。そこで人形から「脱皮」して中から人間のアリスが現れる。このシチュールさは秀逸。

イモムシに教えてもらったキノコの両端の効き目を確かめようとして一方をかじると、室内にあった木々が小さくなる。もう一方をかじると大きくなる。つまりアリスでなく目の前のものが伸び縮みする現象が起きる。アリスは「効き目はじゅうぶんにあつたみたいだけど、思っていたのとはちよつと違うわ」と思う。隣の部屋で赤ん坊の泣き声があるので行ってみると、声はミニチュアの家のなかから聞こえてくる。小さすぎて中がよく見えないので、キノコの片端をかじって家を大きくする。実におかしい。

(3) ネズミの野外炊飯

涙の池に首までつかって頭を出しているアリスをネズミが島と勘違いして上陸し、頭の上で炊飯の準備をする。頭に杭を打ち、石を並べ、鍋に水を汲み、材料を入れ、アリスの

髪を切つてマッチで火をつける。「やり過ぎだわ」とアリスは言い、水に潜つて炊飯をやめさせる。

(4) 靴下イモムシたちの部屋

食品貯蔵庫から逃げ出したあとに入る部屋で、ここでイモムシの忠告を受ける。アリスがその部屋の前にいくと靴がいくつも脱ぎ捨ててある。アリスも靴を脱いで部屋に入る。床には穴がたくさん開いていて、床下から出てきた靴下のイモムシが穴を出たり入ったり、新しい穴を開けたりする。アリスが尻餅をついてつぶしてしまつた靴下を膨らませると穴にもどっていく。机の引出しを開けると、義眼と入れ歯があり青い靴下がそれを付けて机の上にあがり、裁縫かごの中のダーニング・マッシュルーム (キノコ形の靴下かがり台) を立ててその上に乗る。イモムシはアリスに忠告したあと「眠いから行ってくれ」と言い、かがり台にかぶさり、目の穴を針に縫つてもらう (靴下の穴かがりそのもの)。アリスが部屋を出ようとすると彼女の靴下が脱げて穴に逃げ込もうとしたので、引っ張つて取り返す。この部屋のシーンは作品中でもっとも独創性がある。

(5) 壊れやすい登場人物たち

登場人物が生き物でないことを前提にした

ナンセンスがいくつもある。白兔は剥製なので胸や手のひらにあいた穴からおがくずがこぼれ出てしまうと、自分で補充したり穴をふさいだりする。アリスに煙突から蹴り飛ばされたビル（原作ではトカゲだが、これはワニの剥製か？）も白兔に腹を縫ってもらい、口からおがくずを補充される。

決闘するカードの剣士たちはハートの女王の命令で首を切られてもへいきで決闘を続けており、カード・ゲームに興じていた帽子屋と三月兔の人形は、やはり女王の命令で首を切られるが、ふたりは相手の首をひろって自分の胴に付けてゲームを続ける。

(6) 裁判の台本

ハートの女王とのクロッキーのあと、アリスは白兔から裁判の台本を渡され、暗記するように言われる。クイーンとキングがいる部屋に行くと、ふたりも台本を持っており、裁判が始まる。キングはアリスが台本通り罪を認めている箇所を読むように命じるが、アリスは抗議する。

以上のようにこの作品は監督ヤン・シユヴァンクマイエルの遊び心を満載した仕上がりになっており、監督が身近の品物を使って「アリスごっこ」しているようにみえる。

【三】イエロー・サブマリン

アリス以外のビジュアル作品に目を向けてみる。まずは三つの映像作品。ひとつ目はビートルズのキャラクターを登場させたミュージカル・アニメ『イエロー・サブマリン』（一九六八）。海底十万里の地にある楽園ペーランドが、音楽や愛を嫌うブルー・ミーニーズによって侵略される。住民のフレッドは助けを求め、祖先がこの地に上陸するときに乗ってきたイエロー・サブマリンで地上に向かい、英国リバプールに到達した。そこでリンゴ、ジョン、ジョージ、ポールの四人に助けを求め、彼らを加えた一行はペーランドをめざす。行く手にはさまざまな幻想的な海が待ち受けていた。この作品自体がポップ・アート、サイケデリック・アートの所産であるため、全体がナンセンス満載の作品になっている。その中から筆者が特にナンセンスと感じる箇所を、ストーリー順にピックアップする。

(1) ブルー・ミーニーズの攻撃

ペーランドに侵攻してきたブルー・ミーニーズの秘密兵器がおかしい。

・アップル・ボンカー……長身の男たちが上

から大きな青リンゴを落とす。

・クラウン……道師人形の鼻のボタンを押すだけで、あちこちで爆発が起こる。

・ジョーズ (Snapping Turk) ……腹の出たトルコ人の姿をしており、腹の大口で何でも噛み切る。

・フライング・グロブ……巨大な空飛ぶ拳が何でも叩きつぶす。

(2) リバプールの館

助けを求めてフレッド艦長が訪れたリバプールの館の廊下は『不思議の国のアリス』に出てくる地下のホールのように、両側に扉がずらりと並んでいるが、鍵はかかっていない。人けがないときは、さまざまな奇妙なものがひとつの扉から向かいの扉に急いで駆け抜けていき、人間が来ると静かになる。扉を開けてみるとさまざまな世界が見える。

(3) 航海

フレッド艦長とビートルズの四人を載せたイエロー・サブマリンはペーランドに向かう航海でさまざまな幻想的な海を通る。主なものは次の通り。

①時の海……時間がめちやめちやになり、乗組員たちは子どもになったり老人になったりする。

②怪獣の海……さまざまな奇妙なモンスター

が徘徊しているが、特に愉快なのがバキューム・モンスター。周囲のモンスターを次々に吸い込み、画面の背景まで飲み込み、最後には動いている自分のしっぽを見つけて、自分で吸い込んでしまう。

怪獣の海で活躍するイエロー・サブマリンの特殊装備もナンセンスだ。鯨の群れにあってはときにボタンを押すと鯨に擬装できる。ブーツ・ビーストに出会ったときは、潜水艦の下からブーツを出して相手の足を踏む。ボクシング・モンスターに対しては魚雷の代わりに大きな葉巻をモンスターの口に撃ち出し、ライターに擬装して火をつけ、爆発させる。緊急ボタンを間違って押して艦外に排出されたリングがインデアンに襲われそうになったときは、第七騎兵隊を出動させるボタンを押して救出する。

③無の海……バキューム・モンスターにすべてを飲み込まれ無の世界になった場所で行は、ひとりぼっちのあいつ(ビートルズの「Nowhere Man」に歌われている)のジェレミー・ヒラリー・ブーブ Ph. D. に会う。知識豊富な彼に潜水艦のモーターを修理してもらい、艦への乗艦を勧める。

④穴の海……事故で潜水艦と離ればなれになった四人とジェレミーは無数の穴が広がる

海に飛ばされる。その世界はどちらが上でどちらが下でどれがどの穴に通じているのかもわからない。この穴の海のイメージは斬新。リングは穴のひとつを拾い上げてポケットにしまう。やがてペーランドに通じる緑の海への穴を発見した一行は無事ペーランドに到着し、潜水艦とも合流する。

(4) 反撃

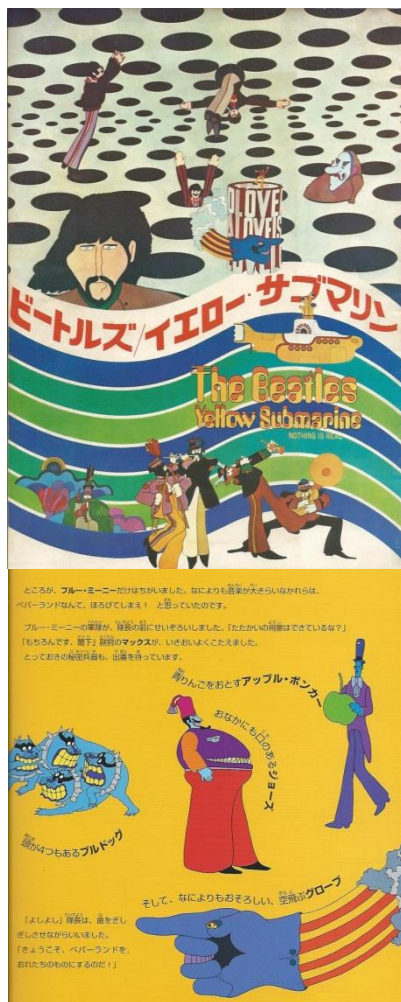
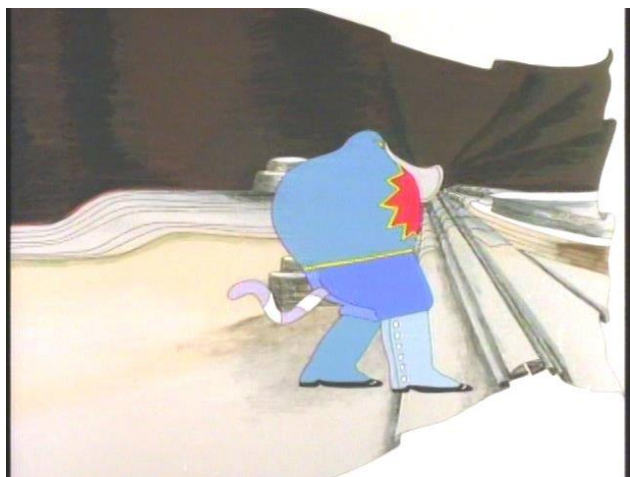
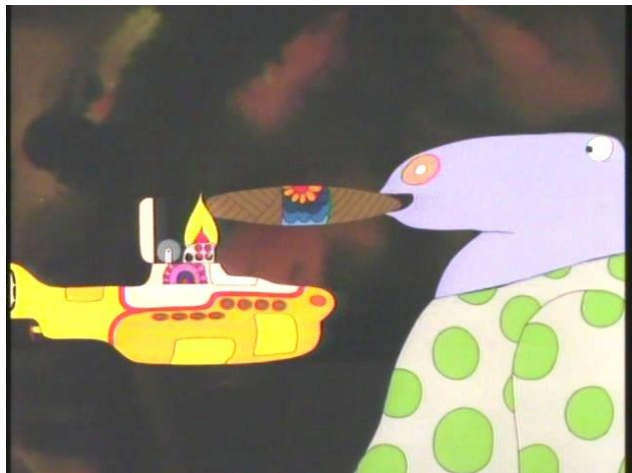
終盤に入るとビートルズの音楽を使ったブルー・ミーニーズへの反撃になるのでナンセンス・シーンは少ない。球形のブルーグラスに閉じ込められていたペーランドの音楽バンド(ペーランド軍曹のロンリー・ハーツ・クラブ・バンド)を救出するために、リングはポケットに入っていた「穴」を球体に貼り付ける。ブルー・ミーニーズの猟犬ブルー・ドッグ (Blue dog/Bulldog) は、四方に向けた頭と前足をもつ四つ頭・八本足の犬。ギリシア神話の三つ頭の犬ケルベロスに似ている。このシーンは、奇形の動物を連想させるということで、英国初公開のあとカットされたがサウンドトラックのレコードに「Hey Bulldog」という曲なせが入っているのか、ずっと疑問だった、現在のブルーレイでは復活している。ブルー・ドッグと自動ピアノのからみを楽しむ。

[四] マルコヴィッチの穴

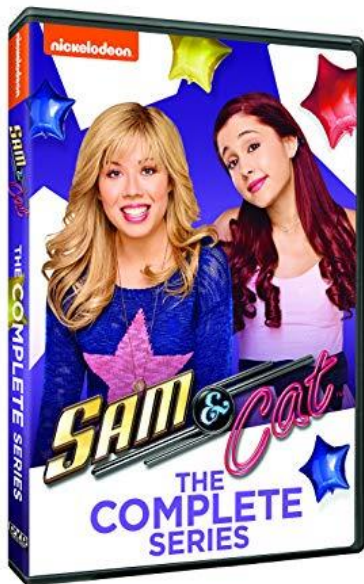
映像作品の二つ目は俳優ジョン・マルコヴィッチ本人を中心に据えた、ナンセンスな設定の映画『マルコヴィッチの穴』(一九九九)。

売れない人形使いのクレイグは、生活のため求人広告を見てニューヨークのビルセブと二分の一階にあるレスター社の面接を受ける。エレベーターで七と二分の一階に行くには、七階を過ぎたところで停止ボタンを押し、ドアをこじ開ける。その階の天井の高さは百六十センチで、背をかがめて歩かなければならない。レスター社に採用されたクレイグが仕事をしているときに、ファイリング・キャビネットの裏に小さなドアをみつける。クレイグがドアの奥の穴に入ると吸い込まれて、行き着いた先は俳優ジョン・マルコヴィッチの脳内だった。ここではマルコヴィッチの五感をすべて感じる事ができた。滞留時間は十五分で、それが過ぎるとニュージャージーのタウンパイク脇の草地に放り出される。クレイグは、同じ階で仕事をする魅力的な女性マキシンとともにJ・M社を立ち上げ、「脳内への旅 一回二百ドル」と広告を打って一儲けすることを企む。

イエロー・サブマリン



サム&キャット



マルコヴィッチの穴



部屋で背をかがめる、小さなドアをみつける、穴に吸い込まれる、他人になってしまう、草地に落ちる——こうした出来事はアリスを想起させる。

物語はこのあと、マルコヴィッチ本人が自分の脳内に入る体験をしたり、クレイグの妻ロツテ（キヤメロン・ディアス）がマルコヴィッチの中に入ってマキシシと関係を持つたり、ロツテが自分を裏切ったマキシシを穴の中に追いかけてマルコヴィッチの潜在意識内を巡ったり、クレイグが長時間脳内に留まってマルコヴィッチを人形のように操れるようになったりと展開し、レスター社の社長が隠していた自分の正体と「穴」のほんとうの使い道が分かって意外な結末を迎える。

ナンセンスな設定であるが、ここで取り上げた作品中でもっとも一貫したストーリーラインがあり、多くのテーマを内包している——他人を操る欲望、他人に変身する欲望、アイデンティティの確認、不死願望、LGBT。

〔五〕サム&キャット

映像作品の三つ目は、米国の若年向け番組制作会社ニコロデオンの人気ドラマ「アイ・カーリー」と「ビクトリアス」の人気キャラ

クターふたりを主人公にしたスピンオフドラマ『サム&キャット』（二〇一三〜二〇一四）。シアトルからバイクで放浪してきたサム・パケットは、ロサンゼルスでキャット・ブレнтаインをこみ収集車から救出したことがきっかけで、キャットの祖母ノーナの家に居候することになる（第一話）。キャットを演じるのは、いま絶好調の歌姫アリアナ・グランデ。歌手デビュー当時の出演作。この作品のナンセンスさは、キャットの「不思議ちゃん」ぶりにある。

・愛用の自転車「キャット号」はピンク色で拡声器・旗がついていて、紫色のキリンのぬいぐるみミスター・パープルを前のかごに載せていることもある。

・口癖は「OK」の代わりに「Kay-kay」（吹き替えでは「オックケッカー」と言い、ドア・チャイムが鳴ると「Ding-dong!」と返すこと）。

・第二〇話「ピンクの靴に夢中！」では、道端でだれかが落としたピンクの靴の片方を拾って気に入り、もう片方を見つかるまでは何も手につかなくなる。

・第三話「祝おうイエイ・デー」では、みんなプレゼントが好きだからプレゼント交換する日を作ろうということで、キャット

が「イエイ・デー」という祝日を作り、みんなに参加を呼びかける。アリスの「非誕生日」を連想させる。

・第四話「ジコチュージン!？」では、意地悪な男の子の前で「Lumpatous」という言葉を使ってしまったサムとキャットは、その言葉が存在するか賭けをするために、

だが辞書でもウェブでも見つからない。権威のある辞書「オックスナード英語辞典」にもないので、その辞書に載せてもらおうということになり、オックスナードのワー

ド・キーパーたちと会い、有名人が使っている証拠があつたら載せるという約束を得る。ふたりはニュージャージー州知事の公用車に無理矢理乗りこみ、その言葉を言ってもらってビデオに撮る。新しい言葉を作り出すところはキャロルのだ。

・第五話「魔法のメロディー」では、キャットがコンビニのATMのボタンで「私を野球に連れてって」（メジャーリーグの試合で七回表終了時にこの歌を歌う習わしがある）のメロディーを弾くと、銀行口座がないのに一回ごとに四百ドル出てくることを見つけ、サムとふたりで買い物三昧する。ここではアリスのように歌詞を間違えて歌ってしまうシーンがある。

Take me out to the ball game / Take me out with the crowd (私を野球に連れてって／観客席へ連れてって) を

Take me down to the basement / Fill the bucket with cheese (私を地下室に連れてって／バケツに一杯チーズを入れて) だと思っている。

・第二七話「ソーダ禁止令!」では、お気に入りの飲料ブルー・ドッグ・ソーダが糖分が多過ぎるということでカリフォルニア州で販売禁止になる。キャットは鋭い味覚でレシピを再現し、仲間たちと家でそれを密造して販売する。
好奇心と欲望と衝動と執着のおもむくままに行動するキャットの「不思議ちゃん」ぶりはとてもキュートだ。

〔六〕中川いさみ「クマのプー太郎」

次にコミックスのナンセンス作品を二つ挙げよう。ひとつ目は四コマ漫画の「クマのプー太郎」(一九九一〜一九九五)。四コマ漫画は原則として起承転結の展開で笑わせる。中川いさみの作品の場合、「結」のオチは読者の予想を裏切る「飛躍感」あるいは「脱力感」があり、いわゆるギャグ漫画の面白さとは違

うナンセンスさが魅力だ。レギュラー・キャラのクマのプー太郎、松村くん、リユー坊等のおかしな言動や周囲の奇妙な出来事には何の脈絡もなく、読者を突き放す。

また準レギュラーのキャラたちは毎回同じネタでバリーションを見せて読者に期待を抱かせる。例えば「幸せを求めて30年、幸せはどこ?」とつぶやく野ウサギが「結」でみつける幸せ。クマのプー太郎が手に入れた魔法のツボをこすると出てくる魔神ロジャーの非力さ。

〔七〕諸星大二郎「葉と紙魚子」

ふたつ目に挙げるのは諸星大二郎が少女ホラー雑誌「ネムキ」に連載した「葉と紙魚子」シリーズ(一九九六〜二〇〇八)で、作者がこれまでに描いてきた伝奇ホラーとは意図的にちよつとハズした作品にしている。主人公は胃の頭高校に通う女子高生の葉と紙魚子。葉はふつうの家庭の娘だがちよつと変な少女。紙魚子の変な本ばかり扱っている古本屋の娘。「生首事件」のエピソードでは、葉が公園に捨ててあったごみの中にバラバラ死体をみつけ、頭を家に持ち帰ってアイスボックスに隠している。そのことを紙魚子に話すと、店

から「生首の正しい飼い方」という本を探してきた。生首を水槽に入れエサを与えて、ふたりして飼うのだが、葉が、生首を飼うなんておたくっぽいからやめようと言いだし、近所の川に放流することになる。

「それぞれの悪夢」では、葉の家のオスの飼い猫、六歳のボリスが、ある日中年のオジサンので現れるが、話をする以外の行動は猫そのもので、葉は家人に隠すのに苦労する。「クトルーちゃん」は、H・P・ラヴクラフトの「クトゥルー神話」へのコミカルなオマージュになっている。近所の廃屋同然の家引越してきた作家・段一知の家でベビースターのバイトを引き受けた葉は、元気で暴力的な女の子クトルーちゃんに手を焼く。その子の母親である段の妻は異界の住人らしく、巨大な頭と白く細い手があり、胴体はよくわからないが多足の軟体動物のような姿をしているようだ。ペットにしているのは異界の生物ヨグで、猫に頭をかじられてもまた生えてくる。また、妻の実家から持ち込まれた異界の外來生物ムルムルが胃の頭公園で繁殖し出すという事態もおきる。つくだ煮にするとおいしいということで、葉は段家からムルムルのつくだ煮の塩詰めをおしつけられる。

こうした状況の中で、さまざまな怪奇事件

に栞と紙魚子が遭遇するというシリーズ。随所にナンセンスな状況が描かれていて楽しめる。二〇〇八年に日本テレビで南沢奈央・前田敦子主演で全十三回の連続ドラマ化されており、作家・段一知を井上順が、その妻を関根恵子が演じている。

中川いさみ

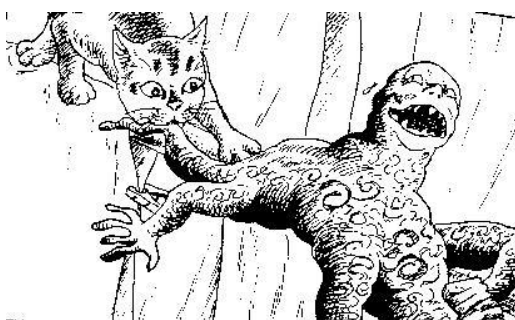
「クマのプー太郎」



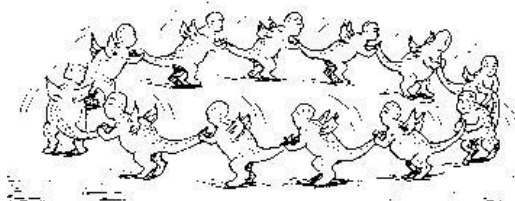


ナンセンスにルールはない。鑑賞する側が、最初に考えていた作品世界とは異質の要素が挿入されていることを感じとり、それを面白いと感じたとき、「ナンセンス感」が生まれるのではないだろうか。作品世界（センス）と異質の要素（ナンセンス）に不整合なズレがあることが必要で、作品中でその要素を筋立てて説明してしまったら、異質性が消え、「ナンセンス」ではなく「ファンタジー」になっ

【八】まとめ



ボリスとヨゲ



ムルムル

てしまう。センスの世界に異質の要素がナンセンスのまま嵌めこまれた結果としてナンセンス作品が生まれる。作中では異質の要素がエンボス加工のようにいつでも浮き上がっているの、おかしくて（つまり「変」で「面白い」、習慣性・中毒性がある。しかし異質の境目は微妙で、制作者の技量によるとともに、受け手側の感性にも依存しており、すべての人が共有できる「ナンセンス」というものは存在しないのではないだろうか。

本稿では、あくまでも筆者が「ナンセンス」と感じる作品を集め、その中で「ナンセンス」な要素をピックアップしてみた。これが筆者の「ナンセンス感」であり、決して皆さんに押し付けるものではない。皆さんは皆さんの「ナンセンス」を探して頂きたい。

【参考文献】

- ① 『1』ディズニー・アニメ『ふしぎの国のアリス』
- ② DVD 『ふしぎの国のアリス スペシャル・エディション』(2005)
- ③ Blu-ray+DVD 『ALICE in Wonderland 60th ANNIVERSARY EDITION』(2011)
- ④ 『ディズニー・クラシックス3 ふしぎの』

- 国のアリス』(竹書房文庫、2003)
- ④『名作アニメを英語で読む ふじぎの国のアリス (字幕対訳付)』(藤田英時編著、宝島SUGOI文庫、2009)
- ⑤『ENCYCLOPEDIA OF Walt Disney's ANIMATED CHARACTERS』(John Grant, Hamlyn Publishing, 1987)
- ⑥『デイズニー・アート展』図録 (2006)
- ⑦『ALICE IN WONDERLAND』(Pictures by Mary Blair: Disney Press, 2008)
- ⑧『メアリー・ブレア展』図録 (2009)
- ⑨『メアリー・ブレア ある芸術家の燦々たるその作品』(ジョン・ケインメーカー著、那波かおり訳、岩波書店、2010)
- ⑩『週刊デイズニー・ファイル No.73』(ラアゴステイニー、2010)「作品の舞台: タルジューの森」掲載
- 〔2〕ヤン・シユヴァンクマイエル監督『アリス』
- ⑪LD『アリス』(日本ヘラルド映画、1990?)
- ⑫DVD『アリス』(日本コロムビア、2000) 英語版
- ⑬Blu-ray+DVD『Alice』(BFI, 2011) チェコ語版
- 〔3〕イエロー・サブマリン
- ⑭『イエロー・サブマリン』映画プログラム
- (エナイト映画、1969)
- ⑮LD『イエロー・サブマリン』(ワーナー・ブラザーズ、1987?)
- ⑯『イエロー・サブマリン』(山川真理訳、河出書房新社、2004)
- ⑰Blu-ray『Yellow Submarine』(EWEインターナショナル・ミュージック、2012)
- 〔4〕マルコヴィッチの穴
- ⑱DVD『マルコヴィッチの穴 DTSコレクターズ・エディション』(マスミック、2001)
- 〔5〕サム&キャット
- ⑲NHK Eテレ放送『サム&キャット』三十六話 (2014・2015、再放送2016・2017)
- ⑳DVD-R『Sam & Cat: The Complete Series』(Nickelodeon, 2015) Region 1
- 〔6〕中川いさみ「クマのプー太郎」
- ㉑中川いさみ「クマのプー太郎」全五巻 (小学館、1991-1995)
- 〔7〕諸星大二郎「葉と紙魚子」
- ㉒諸星大二郎「葉と紙魚子」シリーズ既刊六巻 (朝日ソノラマ、1996-2008)「葉と紙魚子の生首事件」「葉と紙魚子と青い馬」「葉と紙魚子 殺戮詩集」「葉と紙魚子と夜の魚」「葉と紙魚子 何かが街にやって来る」「葉と紙魚子の百物語」